

南あわじ市ふれあい文化芸能祭

勇壮な舞い、優雅な調べ、心躍る音楽。市内で芸能・文化活動に励む人々が一同に集結する第2回目の文化祭。皆さまおそろいでご来場ください。南あわじ市文化団体連絡協議会事務局(生涯学習文化振興課内) ☎37-3020

3/10 水 ~ 17 水
9:00~17:00
市内4公民館

展示部門

3/14 日
9:00~17:30
西淡公民館

芸能部門



盆栽・書道
 緑公民館

絵画
 西淡公民館



写真
 三原公民館



手工芸
 南淡公民館



カラオケ部門
3/28 日 13:00~、西淡公民館

『続三原郡史』

地名の由来

その9

津井(ついで)

崩(ツエ)が転化:

湊里村の南西、西淡丘陵の北部に位置する。津井川下流域と河口部、その北側の播磨灘に突き出た雁子岬、火打川原船入場(港)がある。「淡路国大田文」に最勝四天王院領として、「津井伊加利庄」とみえる。「味地草」に本村勝示、中

津浦勝示、南勝示、濱勝示、西田勝示、内原勝示、雁子勝示が誌されている。津井川が海に注ぐあたりを端津浦という。津井の語源は、和泉砂岩の丘陵地で崩壊地形が多いため、崩(ツエ)が転化したと考えられる。

伊加利(いかり)

猪狩とも書く

津井村の南、志知奥(奥河内)の南西、西淡丘陵南部の山村で小盆地が開けている。猪狩とも書く。津井川の源流域で、同川は、北流して津井村で播磨灘に注ぐ。「淡路国大田文」に津井伊賀利庄とあるのが初見。寛永四年(1627)の「伊加利村検地帳」によると、伊加利本村、仲野、山口、畝原の四勝示が見える。地名の由来として諸説がある。(1) 古代から猪狩を職業としていた人びと

が居住していた土地(2) 伊加利は、井光姫を祭神とし、水銀を採鉱して歩いた吉野系氏族イカリ氏が居住したという説(3) 段丘、谷を上りつめた小平地などがある。地形の状況からいえば(3)の説のとおり、津井川をさかのぼった山間の小平地の意でなからうか。湯の河という小字名は、温泉の出ている小さい河の意である。

編集事務局

市長公室 ☎43・50002